

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度第2回新座市社会教育委員会議
開 催 日 時	令和2年2月17日（月） 午前10時00分から 午前11時30分まで
開 催 場 所	新座市役所本庁舎5階 第2委員会室
出 席 委 員	大出明委員・坂本純子委員・刈田友枝委員・嶋村清治委員・宮脇恵子委員・加藤良明委員・鈴木芳明委員・結城美千代委員（計8名）
欠 席 委 員	若林利明委員・竹内勘次委員（計2名）
事 務 局 職 員	教育長 金子廣志 教育総務部長 渡辺哲也 教育総務部副部長兼生涯学習スポーツ課長 金子啓一 生涯学習スポーツ課副課長 斉藤政登 生涯学習スポーツ課副課長兼スポーツ・青少年係長 小糸克己 生涯学習スポーツ課生涯学習・文化財係長 西珠世 生涯学習スポーツ課主任 柴崎香織 生涯学習スポーツ課主事 西田里美
会 議 内 容	1 開会 2 挨拶 3 議事 (1) 「第2次新座市文化芸術振興アクションプラン」の進捗状況について (2) 令和2年度生涯学習スポーツ課予算概要について (3) 令和2年度社会教育団体補助金交について 4 その他 (1) 「第3次新座市生涯学習推進計画（中間見直し）」及び「第2次新座市文化芸術振興アクションプラン」の次期計画策定について (2) その他 5 閉会

<p>会議資料</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 次第 2 令和元年度新座市社会教育委員名簿 3 【資料1】「第2次新座市文化芸術進行アクションプラン（平成28年度～令和2年度）」進捗状況 4 【資料1・抜粋版】「第2次新座市文化芸術進行アクションプラン（平成28年度～令和2年度）」進捗状況 5 月刊新座市民会館ニュース（令和2年2月号） 6 【資料2】令和2年度生涯学習スポーツ課予算概要について・令和2年度社会教育団体補助金交付予定について 7 【資料3】生涯学習推進計画及び文化芸術振興アクションプランの次期計画策定について 8 令和元年度「新座の教育」について
<p>その他の 必要事項</p>	
<p>審査の内容（審査経過・結論等）</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 挨拶 教育長挨拶・加藤議長挨拶 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 「第2次新座市文化芸術振興アクションプラン」の進捗状況について <ol style="list-style-type: none"> (ア) 資料1（抜粋版）に基づき事務局から説明を行った。 ※成果を上げている事業及び事業に進展が見られた内容を抜粋。 (イ) 質疑応答・意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・文化祭について、跡見学園女子大学にも書道科や美術科の学生がいるため、展示などに参加できないか。例えば東京芸術大学では、所沢の市民会館と連携し、ピアノ科の学生による音楽会が定期的に行われている。跡見学園女子大学では、校内にある花躰記念資料館にて美術作品の展覧会なども行われている。桜の開花時期以外の来館が少ないため、資料館の開放期間に合わせ、他の 	

大学と合同で展示を行うということもできるのではないか。

大学としても地域連携につながるため、大学を通して依頼をもらえれば、さらに幅広い芸術鑑賞の機会になると思う。

⇒ 学生の作品の発表の機会は少ないと思われるため、市民が鑑賞できる機会は有効と考える。新座市の場合、常設ギャラリーとして、にいぎほっとぷらぎのギャラリーが駅にも近く利便性が高いという現状がある。今後の検討としたい。

・ 文化祭に携わっている側であるが、参加者の高齢化は深刻に感じている。そんな中、今年睡足軒の森で行った茶の湯大会については、当日の一般参加者が非常に多く、運営側として手ごたえを感じた。来年もさらに努力していきたい。

なお、展示の件について、以前行っていたように睡足軒（紅葉亭）でも実施することはできないか。

⇒ 睡足軒の森については、植栽の剪定や歩道の整備等のバリアフリー化を行った。全体的に陽がよく入り、印象が明るくなったと思う。4月のリニューアルオープンでは茶道連盟の皆様にもご協力いただく予定だが、セレモニーを含め、市民の方へ睡足軒の森を積極的にPRしていきたい。

また、移転した第二老人福祉センター内には茶室もできたと聞いている。そこを活用するという方法もあると思う。

・ 新しい第二老人福祉センターについては、広報で記事を読んだが、非常に充実した施設と感じた。交通の便や駐車場の有無について確認したい。

⇒ 交通の便については、西武バスやにいバスが利用できる。にいバスについては、停留所も設置されている。駐車場についても20台程度停めることが可能である。

施設内には、健康マージャンや囲碁・将棋が打てる部屋もあり非常に充実している。60歳以上の方が対象の施設となるが、機会があればぜひ利用いただきたい。

・ 文化祭への若年層の取り込みについては課題と感じている。広報への掲載なども行っているが効果が上がっていない。

⇒ 20～40代は活気があるが、仕事や家庭など一番忙しい世代でもあるため、若年層の取り込みは大きな課題である。

しかしながら、例えば栄公民館まつりでは親子のダンスサークルの出演や、文化祭での大学サークル（演劇、器楽など）の出演もあった。それに伴い、若い層の観客が増えている部分もあるため、大学等とも連携しながら、効果的な対応を図っていきたい。

- ・ 公民館でも若年層を呼び込むため工夫している。例えば畑中公民館では、近隣の小学校などの作品展を行い、子供達の保護者にも公民館に訪れてもらうような仕掛けづくりに取り組んでいる。公民館サークルは高齢化が進み、衰弱化しつつある。公民館でも若年層の取り込みに向けて改善策を図る必要があると感じる。

⇒ 公民館や学校等他の機関とのコラボレーションが必要だと思う。仮に公民館で子供向けのイベントを企画したとしても、授業参観等学校行事と重なっているという現状があるため、双方でコンタクトをとるなど連携していきたい。

- ・ 公民館は夜間何時まで開館し、利用状況はどうか。夜間の公民館の活用促進も必要と感じている。例えば今の若い人は、市外のワーキングスペースなどを活用し、勉強会などを行っている。地域の中で社会教育を学ぶ場として、公民館という充実した施設があるのに利用していないのはもったいない。

⇒ 公民館は午後9時30分まで開館しているが、夜間の利用は少ないのが現状である。現在の取組として、指定管理施設である野火止公民館では夜間講座を実施したり、全公民館では、子供達の学習の場として学習室を開放したりしている。学習室については、各学校にも周知を行っているが、交通の便の影響もあり利用数は伸びていない状況である。市民のニーズや公民館の人員配置等も含め、総合的な活性化を図る必要がある。

- ・ 公民館のロビーは子供たちがよく来ている印象がある。夜間利用については、利用者層の高齢化なども影響しているのではないか。若い人たちはそもそも公民館を利用しようという意識が少ないように感じる。

- ・ 昨今の働き方改革で帰宅が早くなってきていることを利用し、夜間については壮年層をターゲットにした活用策を検討しても良いと思う。

また、利用のしにくさとして公民館の利用に当たっては団体での登録が前提であること、利用者から参加費をとる催しを実施するには許可へのハードルが高いことも要因であると考えられる。

- ・ 公民館は敷居が高いという印象を受ける。市民が気楽に利用できる施設となるように、長期的な計画が必要と感じた。

(2) 令和2年度生涯学習スポーツ課予算概要について

(ア) 資料に基づき事務局から説明を行った（以下補足説明）。

- ・ 令和2年度に実施を予定している事業として、市民総合大学をリニューアルして実施する「にいぎプラスカレッジ」、放課後子どもの居場所づくり事業として実施している「ココフレンド」の増設、市制施行50周年に向けた市史編纂事業、日本サッカー協会による社会貢献事業「こころのプロジェクト（夢の教室）」、（仮称）大和田運動場多目的広場の整備に伴うトイレ新設工事などが挙げられた。
- ・ 以上のような事業について、令和2年第1回市議会定例会での議決を経て決定することになる。

(イ) 質疑応答・意見交換

- ・ （にいぎプラスカレッジについて教育長から補足）

これまでの市民総合大学では、修了後に希望者をサポーターとして地域活動に参加いただいております、サポーターを目的とした学科が中心になっていました。しかしながら、市民のニーズとして、純粋に学びを深めるような教養としての講義も求められていると感じている。例えば以前公民館講座で源氏物語をテーマとした際には、市外からも多くの参加があった。そこで、来年度からは跡見学園女子大学で教養講座（まなびコース）を導入し、自己啓発を図っていく。

- ・ 跡見学園女子大学では、茗荷谷キャンパスもあるため、文京区と連携した講座が多い。教養のテーマにもよるが、大学教授だけではなく、高校の先生に講師をお願いするという方法もあると思う。

来年度は新座キャンパスでどのような講座を行う予定なのか。
⇒ 来年度については東京2020オリンピック開催直前である

ことから、「オリンピック・パラリンピック」をテーマとする予定である。

- ・ ココフレンドについて、来年度は全校での実施を予定しているとのことだが、現在何校で実施し、どのような運営形態になっているか。

⇒ 市内17小学校中、今年度で13校実施している。運営形態については、直営が11校、民間委託が2校である。

- ・ ココフレンドの取組については、大和田ココフレンドが文部科学大臣表彰を受けたと聞いた。

⇒ 通年活動を継続しているという点が評価されたこと、来年度に全小学校で実施することも要因となったようである。昨秋に表彰いただいた。

- ・ ココフレンド活動の担い手確保が難しいように感じる。現在は1校何人くらいで活動しているか。

⇒ 担い手は現在、高齢の方が多いが、子どもたちとのかかわりにより元気をもらっているとの話を聞いている。人員としては、1校あたり20名程度、1日の活動人員はコーディネーターを含め平均5名程度で活動している。

- ・ ココフレンドの稼働率はどうか。また、普段はどのような活動を行っているのか。

⇒ ココフレンドは放課後の居場所づくりとしての役割であり、学童保育ではないため、全児童を対象としている。新年度に登録手続をしていただき、保険料を支払うが、登録はおおよそ6割程度ある。夏休み前までの利用が多い印象。学校の規模にもよるが、1日で平均40名程度利用している。

活動内容としては、平日は午後3時から5時の間で、前半は宿題や勉強の時間、後半は外遊びや読書などを行っている。長期休みでは、午前8時30分から午後4時30分まで開設しており、地域の方の指導による折り紙等の工作や、英会話・ダンスなどの特別プログラムも実施している。利用は低学年が多く、特に勉強の時間を設けているのが保護者からも好評のようである。

- ・ ココフレンドを利用しているが、確かに低学年が多い。高学年

になると、授業が6時間あるため、終わった後の活動があまりできないからだと思う。学校等の会議や懇談会の間など、下の子どもを含めて利用することもあり、保護者にとっても大変助かっている。

(3) 令和2年度社会教育団体補助金について

(ア) 資料に基づき事務局から説明を行った（以下補足説明）。

- ・ 新座市文化協会、新座市PTA・保護者会連合会及び新座市婦人会連合会への補助金については、前年度同額を予定している。正式には、令和2年第1回市議会定例会での議決を経て決定することになる。

(イ) 質疑応答

- ・ 婦人会連合会の活動について知りたい（人員や他の社会教育団体との規模感など）。毎年同額の補助金が出されているが、現在の財政状況を鑑みると、活動の中身を明確にし、予算の見直しを行った方がよいと思う。

⇒ 婦人会連合会は、公民館まつり等、古くから大和田・片山両地区で地域に根付いたボランティア活動や民謡等の文化芸術活動を行っている。現在は122名所属しているが、メンバーの高齢化が課題となっている。

なお、他の社会教育団体については、文化協会は280団体2,152名、PTAはすべての小中学校で実施している。

補助金額については過大なものではないと認識しているが、支出状況等引き続き確認を行っていく。

※ その他の質問・意見として

- ・ 外国籍の子供や保護者に対する、社会教育・学校教育の面からの対応はどのようなことを行っているか。

⇒ 外国籍の子供は市内でも年々増加しており、小・中学校あわせて現在100名弱ほどいると認識している。学校については、所定の学校区の年齢相当の学年へ原則入学している。来日当初は日本語が分からず苦慮しているが、翻訳機を介してコミュニケーションしている。そのほか、日本語指導員を派遣して日本語指導を行っているが、人員が少なく週1回の指導となってい

る。ただ、子供の順応性は高く、生活をしていきながら日本語を身に付けているようである。

しかしながら、保護者の方が学校からのお知らせが読めないなど、ケアが足りていない状況である。学校や子供を通じたサポートや、ボランティアによる公民館での自主的な日本語講座なども行われているが、現在の体制ではまだ不十分と認識している。

なお、市のサービスや生活情報については、市民課で手続きの際に4か国語（日本語・英語・中国語・ベトナム語）のガイドブック「新座市くらしのガイド」を配布している。

- ・ 知り合いに外国籍の保護者がいるが、親同士のコミュニケーションの中でサポートを行っていた。外国籍の保護者の方が学校に来る時間が増えれば、サポートできる機会を増やすことができると思う。

4 その他

(1) 「第3次新座市生涯学習推進計画（中間見直し）」及び「第2次新座市文化芸術振興アクションプラン」の次期計画策定について

(ア) 資料に基づき事務局から説明を行った（以下補足説明）。

- ・ 現在の第3次新座市生涯学習推進計画及び第2次新座市文化芸術振興アクションプランについては、計画期間が令和2年度までとなっている。次期計画策定への課題として、スポーツ振興に関する計画がないことや、現在の計画及びアクションプランでの重複事業が多く（文化芸術振興アクションプランの173事業中、128事業が生涯学習推進計画に含まれている）、進捗管理が煩雑となっている。
- ・ 次期計画の策定方針としては、これまでの市の総合計画及び教育大綱を具体的に推進するための個別計画としての位置付けは変わらないが、現在の2本の個別計画を一本化するとともに、スポーツ振興計画を盛り込んだ新・新座市生涯学習推進計画としたい（参考：東大和市の生涯学習・生涯スポーツ推進計画）。
- ・ 策定体制としては、生涯学習推進会議で素案を作成後、コンサルティング会社を活用した素案の整備を行い、パブリックコ

メントや教育委員会・庁議での審議を行っていく。社会教育委員の皆様にも意見募集として、次年度の会議（5月・11月ごろ）で協力いただく予定である。

(イ) 質疑応答

特になし。

⇒（事務局より）来年度1年かけて次期計画の策定を行っていく。社会教育委員の皆様には、次年度の会議で随時報告を行うので、意見等をぜひお願いしたい。

(2) その他

- ・ 社会教育委員の任期は、令和2年3月31日までである。現委員には、令和2年度も引き続き御協力をお願いしたい。

なお、令和2年度第1回の会議は5月頃の実施を予定している。日程は改めて調整する。

5 閉会

宮脇副議長挨拶